明治四十一年三月二十八日　いはき　第廿二號　（毎月三回五日十五日廿五日發行）　（一）

明治四十五年五月廿七日　第三種郵便物認可

いはき

第廿二號

毎月三回　八日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外二郵税五厘
郵券代用一割増
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回
數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　はき社
編輯人兼木村朝近　發行人吉田磯次郎　印刷人高城覺雄

新聞雑誌書籍卸賣業
東京京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度候

言論

磐城青英會の規則に就て（二）

勿論設備の調つて居るのは誠に結構であるが然し、設備善良の學校は入學したが爲めに必ずや、其の者が皆立派になるといふ理屈はない、若し立派になるとすれば誰が苦んで其の餘の學校に入らんやである、皆競つて其の學校に入るであろう、されど、凡ての學生、各趣味を異にし學術研究の方面を異にして居るから、皆同一の學校に入り又は狹く制限した學校のみに入るといふことは出來ないのである、給費の標準は人物の如何に重きを置くべきことで、其の入學する學校の如何は唯參考とする位に止めて澤山である、人物が確なれば、其の學校が、どんなんでも少しも掛念はないと信ずる、況して設備の完全なのは勿論、善良なのさへ、少ないのであるから、若し此等の學校に限るとすれば給費すべき學生の範圍は極めて狹く、第一條の磐城の高等教育に奬勵し云々といふ廣遠なる主意に反するではあるまいか。

夫から官立學校は監督嚴重であるからとはいふものゝ監督をし、又は監督せらるゝといふことは中學又は同程度の學校時代に於てのことであつて之れ以上の學生は思慮分別が付く時代に進んで居るのであるから何も監督をせなければ學業を怠るとか、墮落するとかいふ心配は少ない、又學校に於ても監督が行屆き兼ねる、如何に嚴重な學校といつても、其の力は僅に校内に於てのみで、外に及ぶことは無いと言つても宜しい之亦官私の區別がない、私立から、隨分墮落書生が出るが官立からも出るといふ具合で甲乙無く實例に擧げる迄もないことである。

若磐城中學は監督殊に嚴重であるが、再三ストライキ的騒動があり、又墮落生を出すこと近來一層甚しい樣である、監督嚴重なればかりが生徒を養成する道でない、若し之れが爲めに人物が養はれるとすれは磐城中學の如きは最も人物を出さねばならぬ筈であるが事實は之に反して居る樣である。給費すべき人物が監督の嚴重な學校は人物たるや、誠に憐なもので人物たるの價値なく給費するに足らぬものといはねばならぬ、若し會の方針が如何なる人物でも構はず給費をし又第十六條に掲げた學校に入學したものは皆立派な人物になるといふに在れば余輩又何をか言はん、凡てのものを第十六條規定の學校に入れて給費すべきである、然し第一條により會の方針が然く無法でないことが明白である、第十七條にも被給者の資格として身体壯健品行端正、學業優等の者なることを要すとしてあるに見ても人物に重きを置くことが分る、寧に給費の標準は人物の如何にある、學校の如き多く顧みるを要しない、吾人は斯くの如き規定は全然削除せられんことを望むのである、且又斯くの如き規定は本會關係諸氏の頑迷固陋を表はすのみならず、羊頭を掲げて犬肉を賣るの譏を免れないと思ふ。

第十六條に十三として、高等學校程度の諸學校は同斷といふ改訂追加がある、此は抑何を意味するものゝ、高等學校は大學の豫備門である、此の豫備門程度の學校は吾輩問にして之を知るに困むを遺憾とする、進んで第二十五條には給費すべき金額を各學校に總て規定してある、陸海軍に屬する學校に入學したる者に對して金額を低くしたるは其の當を得て居るけれども此他の各種專門學校の金額は何を標準として規定したるや甚其の意を得ない。

慢性の農村病

石城郡農業技手　柳田三郎

慢性の腸加答兒や胃加答兒を煩つてる人は流石に命が惜しいから、良いと云へばあの藥、利目があると云へば此藥と種々呑んでも見るが、如何な神藥でもそんな患者には湯上りの酒の樣に利目があらう筈はない、これもダメだと云ふ利きそうがない、と云つては五日十日でモウ嫌になつて仕舞ふ。改良の方針も實行の方法も大体に於て定めてある、農事の改良が五年十年と過ぎてもなかなか〳〵効能が見えないで、モウ〳〵改良と云ふ藥に厭きて仕舞た農村は、丁度慢性腸胃加答兒患者のようなものだ。

新顔の技手が來た、之は話せるだらうかと思つて、半ば珍らしげに逢ても見る、けれども其利目は天理王の尊の御水よりも薄い矢張改良難の吐息をせずには居られぬ、疲弊の霧晋も出る、確に慢性腸胃加答兒患者だ。

予輩は、農村の改良は大奮發をして思切た手術をするか、ピリ〳〵と漸次に電氣治療でもやらねばならぬと思つて居る。併し大手術は色々の困難があるといふので、マア散藥だ水藥だと臭いものに蓋をするやうな治療をして居るのが今日の有樣だ、治りそうにもならぬ内に患者の方ではもう厭になつて居るのである。

恐らく今日の農學者農政學者は救濟法として漸進的の調劑をして居るだらう、予輩と雖又此慢性病に對してやはりこの漸進的方法を採用しようとは思ふが、悲しい哉大學感謝に堪へざる所世の無責任なる我利々々病院に入院して博士の執刀を乞ふことの出來ぬ農村は、マア〳〵郡の農業技手と云ふような、漸く開業免狀を貰うたばかりのホヤ〳〵連に、其既に奮言に入た病氣の治療を依頼しつゝあるのである、昔の人は此樣な場合に用ふるために、木に緣て魚を求めると云ふ熟語を作て呉れたのだそうだ。

斯くの如くんば到底農村の改良は期待し得らるべきものではない、此間にありて予輩は、一の獻策があるのである。

眉奇ある新案ではない、少くとも一村一名位の篤農家——公共的の觀念を以て働くものを見つけて、是等の人に所謂に醫者さんの助手をして貰いたいと云ふのである、たゞ儀式的な村農會長などを止して、こんな人を農會長にしたいと思ふ。

其樣な人はないと云ふかも知れぬ、併し村農會は斯かる人に相當の報酬をして、一大奮發をして貰ふ必要があろうと思ふ、よい村長のある村、篤志な老農のある村の治績は何のために擧るか、擧村一の篤志農家を見ずと云ふよりも、恐らくはかゝる人を見つけて働かする方法を考いないと云ふ方に罪があるではないか。

其同の利益も知つて居る、改良の効果も組合の必要も知らぬではない、足許の崖が崩れてくる迄は茫然として居る、農村は手を引張て連れて呉れる親切者がないからだ、村に小二宮尊德翁があつたならば、何も譯がない事であろうと思ふ、併し今の時勢はかような人にも尚相當の待遇を與ふる事を忘れてはならぬ。

郡の農事技手は無論自ら小二宮翁を以て任じなければならぬ。德は孤ならず其功績は漸と現はれてくるであろう。

予輩は尚此各村の篤農家を集めて一年一回位、眞面目な仕事の上の研究會を開きたいと思ふ。平凡なる案ではあるが之が實行を見たならば、少くとも一新生面を開く事ができるであろう、今や村農會役員の改選期に當るので、聊か所感を述べた次第である。

讀者論壇

磐城禁酒會

T、I生

石城禁酒會が磐城禁酒會と改稱し會長大坪雪江氏會員諸君と共に一層會務の發展を謀り社會風敎のために盡瘁せらるゝは吾人の感謝に堪へざる所世の無責任なる我利々々病の無責任なる我利々々と思ふ。平凡なる案ではあるが之が實行を見たならば、少くとも一新生面を開く事ができるであろう、今や村農會役員の改選期に當るので、聊か所感を述べた次第である。

巡査の慈悲

西丸　珠雲

飛雪繽紛銀世界を現せし朝登校の途に下駄の緒踏切りて涙にかきくれし女生徒あり、通掛れる平署の某巡査、此樣を以て看過し去るに忍びざりけん、携ふる所の糸屑を與ひて助くるを見たり、或者には官威を笠に着て威張る者と憎まれ、或者には薄給難職を憐まるゝ小官吏中、温情掬すべき此好漢あるを見て、我心滿てるを覺えたり

本欄投書歡迎十九字詰十行内の事

磐城詩壇

夜半風雨、不能眠、無聊殊甚
即賦一絶、以自遣悶、　錦浦　鶯重三郎

枕上愁聞夜雨聲　疎々密々幾聲々
三更雨輕孤燈冷　又有風聲似雨聲

右席上和韻（一首部一）　菊浦　秋瀧川　濟

其奈夜來風雨聲　此間又懶看吟聲
無聊欲遣細呼酒　更聞窓前落葉聲

江上尋梅（以題字冠句頭）　錦浦

江邊春信早　上柯逐年芳　尋到長橋下
梅花胃雪香　全

江風寒意薄　好是遠尋芳　橋畔梅如雪
清香隔水揚　全

低唱

歌に知る君が面わのやさしさを、思ひ浮ぶる春の宵哉　菊地　珠郷

若草の香をしたひよる小羊の、群れと一日を野にあこがれむ　全

紅梅に白き朝蝶の舞振りや、蒔繪に似たる春景色かな　同

冷ねし身の魂にも似たり遠の灯の、影靑うして君戀ふる宵　横山　星涙

二月や雪も交りし初若菜、若き笑まひのこもれどこそは　同

麗なる日小さき籠に我思ひ、ともにみちたる誇りと見ませ　鹿島　醜骨

ぬるみ行く春の水汲み微笑める、少女がの胸のさも安からむ　同

野の草の春雨ごとに萠ゆるごと、わが思ひこそ日々に伸びゆけ　夜來　閑人

奇しき香の深く身にしむ思ひして、琴の音もるゝ門邊さまよふ　全

彼方此方木の芽ぞ芽ぐむ千葉山の　新妻　茂香

朝月はほのかに落ちて打杭磯、漁り小舟の歌のどかなり　全

悼家兒稻種君（十句）　福田　掬水

春寒や、柩をまもる嵐車のうち

飲み殘る牛乳いたづらに春寒し

さけべとも應え給はぬ餘寒かな

眞柳にはるの雪ちるゆうべかな

泡雪やきねてはかなきひとの上

つぼみなき遺愛の梅もなみだ哉

呼ぶと見て眼覺むる夜半や冴返る

立のぼる香烟一縷、はるむし

立てなほす逆さ屏風や冴え返る

棺を覆ふ白布搖らきて春さむし

春寒五句

無住寺の枳殼垣根やはるさむし　秋江

磐城平吉田禮次郎謹製
一週間分七貼入
金貳拾五錢
いぼたつこちはしりぢむねのはりかみのけのぬけかうもんのいたみ〳〵のたゞれ痔病一切によし

特約販賣店　東京本石町　森田十全
縣郡山　根本祐太郎
白河　松井平助
下取　福嶋三春　木村忠助
本宮　若井屋安松　山口保命堂
次　全
磐江　林治郎兵衛
岡　菊地豊太郎
鹿島　只野
新山　佐々木保
久ノ濱　白石屋久太
佐々木

御覽儀物一式
シヤツ、インバネス
東コート、洋傘
舍鹽屋吳服店

金物問屋
日本セメント株式會社
特約大販賣
磐城平町五丁目
久釜屋久太郎

効用は火災盜難の防備の安全
下野特產金庫製造賣元
栃木縣宇都宮市大工町
各位の寶用の成績を乞ふ
振替貯金口座第四五〇壹番（電話四五七番）
吉田虎之助

特約大販賣
岩代國桑折北町
銅鐵砂糖金庫商
大沼平兵衛
（電信略號オヘ）

特約大販賣
磐城平町五丁目
和洋銅鐵金物金庫
諸橋久太郎
商號釜屋

特約販賣店　東京本石町　森田十全
縣郡山　根本祐太郎
白河　松井平助
下取　福嶋三春　木村忠助
本宮　若井屋安松　山口保命堂
次　全
磐江　林治郎兵衛
岡　菊地豊太郎
鹿島　只野
新山　佐々木保
久ノ濱　白石屋久太
佐々木

池農う蚕籠ひたすやはるさむし　今
鳥居すきて行く畦路や春あさし　全
風かゞる宮の一木やはるさむし　全
長き日や算盤珠はいくつありや　全
春季亂題を募集す
廣告

ライシシグサン石油會社
輸入タンク石油特約販賣
磐城平新川町
長松醫恒吉
大室屋號

荒物砂糖水油
疊表醬油釀造販賣

製造元
茨城縣高濱町
羽成卯兵衛

米國大博覽會金牌受領
第五回内國博覽會銀牌受領
登錄商標
日本
開運
最上醬油
磐城平町長橋町
特約販賣店　篠塚商店

黴毒痲病膀胱病
小兒病專門
雙葉醫長家
石川醫院
平町磐城銀行裏
同分院

特製牛乳
乳質純良
消毒完全
配達迅速
磐城平町北目町
磐城牛乳舍

◎馬匹共進會

既報の如く來る廿九日より三日間平町に於て石城雙葉二郡聯合馬匹共進會を開き四月一日より三日間優等馬匹の糶市を催し諸方の有力家をも招待したる事とて準備委員は目下大多忙を極め居れり

◎清酒品評會

濱街道三郡聯合清酒品評會は去十二日より開會十六日褒賞授與式を擧行せるが出品總數六十二人九十点之を郡別にすれば石城郡五十三点三十六人雙葉郡二十四点十九人相馬郡十三点七人にして出品人出品点數受賞者共石城郡は相馬雙葉二郡を合したるよりも多く殆ど富岡町に開きたる石城郡清酒品評會の如き觀ありき石城郡受賞者は左の如し

▲一等　石城郡平町叶多鉾治(朝日)仝高久村矢吹清六(清盛)　▲二等　石城郡江筌々村近藤彌作(寶來)仝下小川村吉田至誠(北斗正宗)仝磐崎村大平左司馬(太平)仝錦村正木治郎兵衛(千代錦)仝高久村大友金次郎(友井)　▲三等　石城郡夏井志賀友次(千代の友)仝平町叶多鉾治(光菊)仝大野石井金之助(玉泉)仝窪田赤澤小四郎(大關)仝磐崎大平左司馬(盛鯛)仝大野石井金之助(玉井)仝高久箱崎淺吉(東海)仝鈴木平十郎(高妙)仝本馬金五郎(福壽)仝内郷馬目太吉(近)仝飯野永山泉七郎(男山)仝平飯山和平(永森)仝鮫川古川德三郎(稲妻)

◎改築延期申請

石城郡飯野村大字谷川瀬山崎吉太郎氏は仝部落を始め南北的土の三大字の贊成連署を以て左の申請書を村長猪狩文郎氏に提出せりとの事而して谷川瀬永山泉七郎氏は第一着に贊成せる由

無期延期之義申請書

一飯野村役場改築の件

明治四十一年度内に於て村役場新築の件本年通常總會に於て決議相成趣我々村民一同開及驚愕の至りに堪へず役場の美觀を呈するは單に不生産的の事業にして役場の美なるが故に村民の生産力を增殖するものに非ず之に反し役場の家屋朽廢に傾き之がために村内生産力非增殖に陷るものとせば所謂新陳代謝の必要あり人間も亦然りとす本村内就中水害の甚敗地は谷川瀬南北白土の三大字にして明治三十八年の大水害稻作皆無を始めとし卅九年亦水害を被り四十年亦水損あり收穫の六分六厘損害し三分三厘の收獲のみにて僅に生命を維持するに足らざる者の如し此第民に對し其力の耐否を計るは我々を代表する議員の責任なりとす聞くに本年村税の立場より現代の社會組織を批評し其眞相を發き姑息なる改良政策の無効にして到底根本的改造の必要なる所以を絶叫し社會主義の理想に論及せり右諸氏の演說は何れも熱心にして聽衆に著しき感動を與へたり次組合設立の急務を道破せり最後に永井億彌氏は『社會主義と其現代觀』と題し社會主義の立場より現代の社會組織を批評し其眞相を發き姑息なる改良政策の無効にして到底根本的改造の必要なる所以を絶叫し社會主義の理想に論及せり右諸氏の演說は何れも熱心にして聽衆に著しき感動を與へたり次いで討論會に移りて『配偶の撰擇上容貌と精神と何れに重きを措く可き乎』てふ題を掲げ容貌派と精神派の二組に分れて甲論乙駁口角泡飛ばして互に論鋒を交へ相讓らざりしが討論終結して中島會長の批判あり結局双方に花を持たせしは頗る愛嬌なりき尚は餘興として別に十餘技禁かるた會撃劍等の催しあり終つて一同茶菓を喫し快談笑語興の盡くるを知らざりしが午後五時に至りて散會せり

◎鮫川通信

村長赤津又太郎氏能く教育の方面に力を注き助役鈴木一枝氏專ら水産發達に留意し村内第一の素封家たる渡邊示會員高木誠一氏の答辭ありて後清楚なる茶話會を開きて散開せりと

◎平小學校教育品展覽會

石城郡平高等尋常小學校にては福嶋市に開催の教育品展會に撰拔出陳に洩れたる兒童の書方裁縫編物刺繍等數百点を陳列して廿一二日の休業を利用し公衆の縱覽に供したり兒童の成績品には見るべき物多く又勿卒の間にせる割合には準備よく整ひ殊に生徒の下足番など氣が利きて參觀人に大なる愉快を與へたり出品中には平陽雅田兩女學校のものもありて場中に一層の光彩を添へり

◎消防組慰勞會

石城郡草野消防組第五部(大字原高野)は組織以來熱心に盡力せる舊小頭部長新妻八太郎氏小頭鈴木來之助氏並に會計二名改選に付去十六日盛大なる慰勞會を催し新任小頭新妻光太郎氏開會の辭を述べ今鈴木豊三郎氏の祝辭あり夫より賀小頭慰勞の爲め紀念木盃を送り和氣藹々たる間に散會したりと

◎石城郡の事業補助

過般の郡會決議を經たる明四十一年度に於て石城郡の補助を與ふる事業は左の如し

教育補助費　(四千六百二圓)

▲磐城女學校補助(千八百圓)▲縣立高等女學校敷地買收費平町へ補助(二千圓)▲平教育部會補助(五百二圓)▲平町私立産科婦學校へ補助(三百圓)

衛生費補助　(五百三十圓)

▲私立磐城産婆會補助、三百五十圓)看護婦生徒補助(百八十圓)

勸業費補助　(三千八百四圓八十三錢)

▲郡農會補助(千百圓)▲牝馬購入補助(四百圓)▲水産組合補助(千圓)▲共進會出品協會補助(千百四圓八十三錢)▲石城郡盆友會補助(千圓)▲産馬組合補助(千圓)

◎夜學會閉會

石城郡草野村北部青年夜學會は第二小學校内に於て昨年十二月廿三日より開設の所去十四日を以て閉會式を擧行せるが當日は出席會員廿名酒井校長の訓話あり夫より午後五時一同出席滿場一致聯合派の星喜三太氏を議長に選擧したり

◎川部村民の迷謬

石城郡川部村は十數年來養蠶業を營み收穫を發き姑息なる改良政策の無効にして到底根本的改造の必要なる所以を絶叫し社會主義の理想に論及せり右諸氏の演說は何れも熱心にして聽衆に著しき感動を與へたり次いで討論會に移りて『配偶の撰擇上容貌と精神と何れに重きを措く可き乎』てふ題を掲げ容貌派と精神派の二組に分れて甲論乙駁口角泡飛ばして互に論鋒を交へ相讓らざりしが討論終結して中島會長の批判あり結局双方に花を持たせしは頗る愛嬌なりき尚は餘興として別に十餘技禁かるた會撃劍等の催しあり終つて一同茶菓を喫し快談笑語興の盡くるを知らざりしが午後五時に至りて散會せり

◎鮫川通信

村長赤津又太郎氏能く教育の方面に力を注き助役鈴木一枝氏專ら水産發達に留意し村内第一の素封家たる渡邊示會員高木誠一氏の答辭ありて後清楚なる茶話會を開きて散開せりと

◎平小學校教育品展覽會

石城郡平高等尋常小學校にては福嶋市に開催の教育品展會に撰拔出陳に洩れたる兒童の書方裁縫編物刺繍等數百点を陳列して廿一二日の休業を利用し公衆の縱覽に供したり兒童の成績品には見るべき物多く又勿卒の間にせる割合には準備よく整ひ殊に生徒の下足番など氣が利きて參觀人に大なる愉快を與へたり出品中には平陽雅田兩女學校のものもありて場中に一層の光彩を添へり

◎消防組慰勞會

石城郡草野消防組第五部(大字原高野)は組織以來熱心に盡力せる舊小頭部長新妻八太郎氏小頭鈴木來之助氏並に會計二名改選に付去十六日盛大なる慰勞會を催し新任小頭新妻光太郎氏開會の辭を述べ今鈴木豊三郎氏の祝辭あり夫より賀小頭慰勞の爲め紀念木盃を送り和氣藹々たる間に散會したりと

◎石城郡會兩派の政戰

前號にも報導したる如く第十二回石城郡通常郡會は格別重大なる議案もなかりし事とて表面は至て平穏に經過したるも進歩派と政友中正の聯合軍とが各智力を盡しての政戰は頗る活氣を帶び興味多きものありしが以て左に逐次其眞相を報導せん

◎聯郡の疑議　昨年の臨時會にては僅一票の差にて全敗を招げる聯合軍は今期にこそ會稽の耻を雪がんと欲し進歩派にてはさきに候補者に就て異論を生じ幹部が非常の苦心はさせじと互に肝膽を碎きて談議を凝らしつゝありしが二月廿五日の夜に至り聯合軍の幹部白石信愛、小林藏次、蓮見繁、高田唯一郎、佐藤庄太郎、星喜三太の諸氏は湯本キタルに會合して鳩首密議し二十六日に進歩派の議員を悉く召集して歩調を整ひ又日所を新田町いろは亭に移し白井、下山田、四家の三氏專ら帷幕の計を回らし聯合派には松本代議士も來り參じ各軍容堂々たり此時に於ける兩派所屬議員は左の如し

聯合派　木村清治、猪狩金之助、桧崎松治、山崎與三郎、遠藤伝右衛門、村上安吉、大野惟精、古川辰藏、久保木吉房、吉田正修、小泉伊之助、野崎武兵衛、星喜三太、鷲清吉、小野鷲四郎、赤津庄兵衛、高木伊之八、鈴木大藤、大越甚太郎

進歩派　永山末藏、大平内藏吉、坂本秀松、中田政治、篠川信人、横内直温、木田敏也、桧本政松、會田市松、田子英吉、草野登、新妻齊、志賀伊之松、開馬安次郎、鈴木直憲、矢吹熊造

◎緊急動議出づ　戰雲暗澹たる間に十日は來れり前夜の謀議に依り聯合派は木村清治氏を進歩派は横内直温氏を院内總理と定めたるが開會の勢兩聯合軍の木村氏より役員選擧問題に對する緊急動議提出され贊成者ありて議題となる進歩派横内門馬志賀の諸氏猛烈なる反對論を述べ討論三時間討論の後採決起立を見れば贊成十七名反對十六名多數を以て動議は成立したり

◎第二緊急動議　此時進歩派の横内氏起ち役員選擧問題は更に議長指名の委員五名を擧げ愼重の調査をなさんとの緊急動議を提出し進歩派は擧て之を贊し聯合派は必要なしと呼び可否を起立に問ひしに贊成者十七名古川氏進歩派に同意したるため敗れたる聯合派の遺恨思ふべし然るに星議長は暫く採決の結果を宣告せず時に傍聽人中より出でゝ議長と耳語する者あり進歩派の議員は議長は不公平なりと罵り總立となり横内氏を先鋒とし各番號札を手にして議長席に詰め寄するあり議場は殺氣紛々紛擾の極点に達し整理の見込なきに至りしより議長は傍聽人の退場を命じ休會を宣告す兩派各事務所に引揚ぐ

◎臨家潜えず、開會　十一日の午前には前日の決議に從ひ調査委員五名を擧げて議事を進行せしめ午後に至り聯合派は此問題を解決せん希望なりしも古河議員の嚮背不自由のため止むなく今期は保留問題として解決を明日に待つことゝして止めり

決戰を試みんと期せしに茲に聯合派中役員候補者に就て異論を生じ幹部が非常の苦心にて漸く纏めたるも此紛紜の結果一人の欠席議員を生じ總數十九名中議長と欠席者とを除けば十七名にて進歩派の勢力と優劣なく必勝を期し難きを以て進まず

◎兩軍の陣立　九日に至り進歩派は事務所を新田町いろは亭に移し白井、下山田、四家の三氏專ら帷幕の計を回らし聯合派には松本代議士も來り參じ各軍容堂々たり此時に於ける兩派所屬議員は左の如し

聯合派　木村清治、猪狩金之助、桧崎松治、山崎與三郎、遠藤伝右衛門、村上安吉、大野惟精、古川辰藏、久保木吉房、吉田正修、小泉伊之助、野崎武兵衛、星喜三太、鷲清吉、小野鷲四郎、赤津庄兵衛、高木伊之八、鈴木大藤、大越甚太郎

進歩派　永山末藏、大平内藏吉、坂本秀松、中田政治、篠川信人、横内直温、木田敏也、桧本政松、會田市松、田子英吉、草野登、新妻齊、志賀伊之松、開馬安次郎、鈴木直憲、矢吹熊造

◎兩派の苦心　議長問題は既に一段落を告げたれと尚他に重大問題あり即臨時郡會に於て進歩派より擧げられたる志賀議長は過半數を有する自派の贊成を得て副議長以下の役員を指名し大野議員が異議をも顧みず其儘確定としたるは違法なるが故に正さんとの主張を有する聯合派は如何にもして目的を貫徹せんとし進歩にては敵の乘ずる隙なからしめんがため攻防兩派とも苦心慘憺たり

◎斯間に廿八九日は無事に終り卅日は日曜一日より三日迄は議案調査の爲に休會したるが聯合派にては四日の夜迄に攻撃の準備略整ひ右日には事を決行せんとせしに事故により五六日兩間欠席する者二名を生じ出でゝ戰ふによからず

◎聯合派の紛紜　七日午前には進歩派は郡會事務所に引揚ぐ

◎臨家潜えず、開會　十一日の午前には前日の決議に從ひ調査委員五名を擧げて議事を進行せしめ午後に至り聯合派は此問題を解決せん希望なりしも古河議員の嚮背不自由のため止むなく今期は保留問題として解決を明日に待つことゝして止めり

◎稅務署員昇給　平稅務署員今野力氏は月俸十七圓に中村稅務署員三浦忠作氏は廿三圓に昇給せり

◎日當の變更　石城郡會議員名譽職參事會員委員の日當は是迄何れも一圓廿錢なりしが明四月一日よりは議長及副議長金二圓其他は一圓五十錢づゝ支給することゝなれり

◎裁縫教員募集　石城郡にては郡内各町村に配置すべき裁縫教員志望者四十人を募集し明四月より六ケ月間磐城女學校に委托して必要なる學術技藝を授け卒業の上は各小學校に採用すべしとの事なれば志望者は各町村役場に就て承合せらるべし因に講習中は一人一ケ月五圓宛食費を補助せらるべければ入費も多くかゝらざるべし

◎裁縫生の抓喰　平町藤田裁縫女學校生田きみよといふは石城郡内郷村大字泊の脚紫鵝とか彼岸とか云ふに惚れて時計を抵当に入れ大河内某の娘にて昨年末より裁縫稽古に通ふ中迷ひ込みそこ此處の蕎麥屋などにて媚曳に居るを知らぬは亭主ばかりなりとの投書の儘なれば入費も多くかゝらざるべし

◎亀子の大騒ぎ　學生藝妓の綽名ある甲居たのでどの樓の亀子は過般開演せる歌舞伎芝居の馬の脚紫鵝とか彼岸とか云ふに惚れて時計を抵当に入れ大河内某の娘にて昨年末より裁縫稽古に通ふ中迷ひ込みそこ此處の蕎麥屋などにて媚曳に居るを知らぬは亭主ばかりなりとの投書の儘なれば入費も多くかゝらざるべし

◎金平按摩の氣焔　ガラクタ時計の代りに女房をやつて奇名を謳かしたる金平按摩は一人手に手を取て花の上野停車場迄の切符答、占着を賣ても紙屋と云ふ如し(坂下)

酒を賣ても釘屋と云ふ如し(醜骨)

三、貧病の療法を問ふ　本病は四百四病中の難症にして傳染性を有し唐醫の匙加減にては到底之を治することの能はず一名を棒といふが故に一般社會と交通遮斷を行ひイッシンフランを飲み自己の辛棒を強うし以て貧棒を粉敲墓に打碎くべし但し旁敲や

財の力(上)

太郎生

予はタッタ今、岩崎男爵危篤の報を聞た、同時に予の心の底では、敗軍の將に向ふの山陰に、味方の旗印を認めたような感じがする、予は何も、岩崎男に對して呪詛の念を抱くものではないが、過ぐる頃、男が何へ持て居れば、無暗矢鱈に崇め奉て仕舞居る、情ない次第である、而して根本的に生命の源にみつ酒れるのを忘れて居るので、自分の身体だか他人のだか見境のつかない迄に、自意識といふものが光を失て仕舞ふのである、自己といふ考のシッカリきまらぬものに、何で社會があらう、何で國家の平和があらう、何で人類があらう、何で世界があらう、何で宇宙があらう、何で無があらう、何で有があらう、何で……

……

……

財の力

（上）　太郎生

予はタッタ今、岩崎男爵危篤の報を聞た、同時に予の心の底では、敗軍の將さ向ふの山陰に、味方の旗印を認めたような感じがする、予は何も、岩崎男に對して呪咀の念を抱くものではないが、過ぐる頃、男が何とか云ふ稀代の難病に罹られた時に、黄金の力と地位の尊貴とを以て、不治の病患を治せしめたらしかつたのを見て、さては科學の勢力は自然の因果をも動かすに至つたのであるが、否、財の力は生死と云ふ大問題をも解決するに足りるものであるかと云ふ疑に包まれて、朧げ乍ら、自然力の偉大なのを尊崇し、財力、知力、腕力の云ふにも足らぬものであるを信じて居た信仰を、根本から覆へされ、この信念を前提をして成立せる、予が他の計畫をメチャ〳〵に打破されたかと悲しんだ、重ねて云ふ、他人の病が不治から可治に恢復するのを、悲むと云ふ筈は無いのであるが、予の謂ふ意味は岩崎男と云ふ具体的な人物を云ふのでなくして、日本一の富豪、貴族、勢力者と云ふ意味である、さて此のように思ふて居た予が、今、彼の再起つ能はざるになり至たのをきいて、敗軍の將勇を語るの時來れりと思ふのである。

勿論、財の力は無力ではない、財の生産には非常なる勢力と、苦心とが入用である、從てそれが、社會に尊重せられるのは當然の事である、けれども、その貴きは、財其物に絶對的價値があるのではなく、財が人の欲望を滿足せしめると云ふ点が尊いのである、非常な飢饉に際しては、拾圓の金貨を示して握飯一顆を得ようとしても駄目である、此場合には食慾が貨幣に對する欲望を征服して仕舞たのである、凡そ人の欲望の中で、最も根本的な、最も強大なものは何であるぞと問ふならば、生存の欲望である、と答へねばならぬ、然るに人は、最も根本的なる慾望の滿足を計ることを忘れて、末の又末なる貨幣（貨幣のみが財ではないのであるが、夫すらも誤解して居る人が多い）を追求して、所謂鹿を追ふ山を見ざる底の無茶苦茶な行動をして居る、爪に火を點すとは之である、考ひて見れば馬鹿な噺ではないか。本を忘れて末に走る程の目先きのきかぬ餘りに、愚者であらうが、我利々々亡者であらう、黄色な光のある圓い物さへ持て居れば、無暗矢鱈に崇め奉て仕舞て居る、情ない次第である、而して根本的に生命の源にみつ涸れるのを忘れて居るのでは、自分の身体だか他人のだか見境のつかない迄に、自意識といふもの光を失て仕舞ふのである、自己といふ考のシッカリきまらぬものに、何で社會があらう、何で國家があらう、況や法律をや道德をや、たゞモウ財の影のみを追ひかけて、他の物は目に入らぬのである、思ひたらく貨幣は萬能であると、このような人々は、實業の日本だと云ふ雜誌は、バイブル程に有難いようだ。趣味を語り、文學を論じ、修養を說くのを聞けば、忽にして一笑に附し去るのである、青二才に何が解るか、成功だとか云ふ程の偉大なる人物の、自然力の偉大なるを尊崇し、財力、腕力の云ふに足らぬものであるを信じて居た信仰を、根本から覆へされ、この信念を前提をして成立せる、予が他の計畫をメチャ〳〵に打破されたかと悲しんだ、重ねて云ふ、他人の病が不治から可治に恢復するのを、悲むと云ふ筈は無いのであるが、予の謂ふ意味は岩崎男と云ふ具体的な人物を云ふのでなくして、日本一の富豪、貴族、勢力者と云ふ意味である、さて此のように思ふて居た予が、今、彼の再起つ能はざるになり至たのをきいて、敗軍の將勇を語るの時來れりと思ふのである。

勿論、財の力は無力ではない、財の生産には非常なる勢力と、苦心とが入用である、從てそれが、社會に尊重せられるのは當然の事である、けれども、その貴きは、財其物に絶對的價値があるのではなく、財が人の欲望を滿足せしめると云ふ点が尊いのである、非常な飢饉に際しては、拾圓の金貨を示して握飯一顆を得ようとしても駄目である、此場合には食慾が貨幣に對する欲望を征服して仕舞たのである、凡そ人の欲望の中で、最も根本的な、最も強大なものは何であるぞと問ふならば、生存の欲望である、と答へねばならぬ、然るに人は、最も根本的なる慾望の滿足を計ることを忘れて、末の又末なる貨幣（貨幣のみが財ではないのであるが、夫すらも誤解して居る人が多い）を追求して、所謂鹿を追ふ山を見ざる底の無茶苦茶な行動をして居る、爪に火を點すとは之である、考ひて見れば馬鹿な噺ではないか。本を忘れて末に走る程の目先きのきかぬ餘りに、愚者であらうが、我利々々亡者であらう、黄色な光のある圓い物さへ持て居れば、無暗矢鱈に崇め奉て仕舞て居る、情ない次第である、而して根本的に生命の源にみつ涸れるのを忘れて居るのでは、自分の身体だか他人のだか見境のつかない迄に、自意識といふもの光を失て仕舞ふのである、自己といふ考のシッカリきまらぬものに、何で社會があらう、何で國家があらう、況や法律をや道德をや、たゞモウ財の影のみを追ひかけて、他の物は目に入らぬのである、思ひたらく貨幣は萬能であると、このような人々は、實業の日本だと云ふ雜誌は、バイブル程に有難いようだ。趣味を語り、文學を論じ、修養を說くのを聞けば、忽にして一笑に附し去るのである、青二才に何が解るか、成功だとか云ふ程の偉大なる人物の、自然力の偉大なるを尊崇し、財力、腕力の云ふに足らぬものであるを信じて居た信仰を、根本から覆へされ、この信念を前提をして成立せる、予が他の計畫をメチャ〳〵に打破されたかと悲しんだ、重ねて云ふ、他人の病が不治から可治に恢復するのを、悲むと云ふ筈は無いのであるが、予の謂ふ意味は岩崎男と云ふ具体的な人物を云ふのでなくして、日本一の富豪、貴族、勢力者と云ふ意味である、さて此のように思ふて居た予が、今、彼の再起つ能はざるになり至たのをきいて、敗軍の將勇を語るの時來れりと思ふのである。

勿論、財の力は無力ではない、財の生産には非常なる勢力と、苦心とが入用である、從てそれが、社會に尊重せられるのは當然の事である、けれども、その貴きは、財其物に絶對的價値があるのではなく、財が人の欲望を滿足せしめると云ふ点が尊いのである、非常な飢饉に際しては、拾圓の金貨を示して握飯一顆を得ようとしても駄目である、此場合には食慾が貨幣に對する欲望を征服して仕舞たのである、凡そ人の欲望の中で、最も根本的な、最も強大なものは何であるぞと問ふならば、生存の欲望である、と答へねばならぬ、然るに人は、最も根本的なる慾望の滿足を計ることを忘れて、末の又末なる貨幣（貨幣のみが財ではないのであるが、夫すらも誤解して居る人が多い）を追求して、所謂鹿を追ふ山を見ざる底の無茶苦茶な行動をして居る、爪に火を點す

◎稅務署員昇給　平稅務署員今野力氏は月俸十七圓に中村稅務署員三浦忠作氏は廿三圓に昇給せり

◎日當の變更　石城郡會議員名譽職參事會員委員の日當は是迄何れも一圓廿錢なりしが明四月一日よりは議長及副議長金二圓其他は一圓五十錢づゝ支給することゝなれり

◎裁縫教員募集　石城郡にては郡内各町村に配置すべき裁縫教員志望者四十人を募集し明四月より六ヶ月間磐城女學校に委托して必要なる學術技藝を授け卒業の上は各小學校に採用すべしとの事なれば志望者は明村役場に就て承合せらるべし因に講習中は一人一ケ月五圓宛食費を補助せらるべければ入費も多くからざるべし

◎裁縫生の抓喰　平町藤田裁縫女學校生徒は石城郡内郷村大字泊の[illegible]紫[illegible]に[illegible]日[illegible]十[illegible]以[illegible]は[illegible]に[illegible]の[illegible]に[illegible]ツコン[illegible]

◎海軍兵檢査　去廿一二の兩日石城郡及び町内學務委員等も臨席したり役所に於て郡内海軍志願者の學術及体格檢査を行はれたるが檢査官は海軍大尉荒木三郎大軍醫丸田利助一等筆記波多野樂吉二等看護手若宮民治一等看護森喜久之助二等水兵津谷治助の六氏にして志願者總數九十八人中最も多かりしは内郷村の八人泉は七人夏井は六人玉川大野草野は各五人其他の町村は四人以下なり

◎幹部の疑議　昨年の臨時會にては僅一票の差にて金敗を招げる聯合軍は今期にこそは一人でも多くの議員を送り込まんとの目的の下に[illegible]

◎石城郡會兩派の政戰　前號にも報導したる如く第十二回石城郡通常郡會は格別重大なる議案もなかりし事とて表面は至て平穏に經過したるも進歩派と政友中正の聯合軍とが各智力を盡しての政戰は頗る活氣を帶び興味多きものありしが以て左に逐次其景況を報導せん

昨年の臨時會にては僅一票の差にて金敗を招げる聯合軍は今期にこそは一人でも多くの議員を送り込まんとの目的の下に[illegible]

◎聯合派の紛紜　七日午前には進歩派は全部出席せしも聯合派は影を見せず午後に時聯合派は一舉に勝利を收めんと意氣込盛に議場に臨みしも進歩派議員は變影もを止めず聯合派は過半數の議員あるも反對者一人も無き所にて此重大問題を議決するは卑劣なりとて八日の日曜を過し九日には愈々大氣焰を吐いて曰はく早くからクッ附いて取られると決まつた噂だもの奇麗サッパリと呉れてやつて時計を取たのは此方の勝さとなるほど聞いて見れば金[illegible]

◎何のことか[illegible]葬むるも氣の毒なれば原文のまゝ左に掲げたる一文讀者の判斷を乞ふはいけい、ある平町のあさは、田町たい[illegible]

◎消防組の悶着　石城郡草野消防組十三名基本金百三十餘圓に達し全然無學なり貧家の子弟にても全會に入りて研究の結果高等二年位の學力を有するに至れるもあり村長酒井義孝有力家新妻西五郎氏等最も會のために力を盡されたり去十七日閉會式を行ひしに出席會員六十五名來賓數名あり會長新妻藤松氏の開會に次ぎ校長遠藤角彌及佐藤男二氏の訓諭あり成績優等者十二名に賞品を與へ祝引の餘興に愉快を盡して散じたり

◎寄宿生の不平

……北條舍監長の不評判……

……血判を捺しての誓約……

世間稀に見る良使丁夏井平三郎氏を出せる磐城中學校は内部の紛訌常に絶えず種々の形によりて失態を暴露しつゝあるは實に痛嘆の限りなり三月以來試驗のために多忙を極め至て平穏に過ぎたれども底深く鬱延せる病根は容易に拔れず新學年に入り少しく閑暇を得ると共に又勃發の憂なきにあらざるが故に吾人は是迄秘せられたる同校寄宿舍生と舍監との關係を報導して公平なる世人の判斷と同校職員學生諸君の猛省を乞はんと欲するなり現舍監長たる北條猛次郎氏は去明治卅六年地理歷史の教師として同校に赴任したるものにして就職の當時は何等の事もなかりしが二年經ち三年經つ間に漸々生徒の信用を失ひ殊に昨秋縣廳より學事視察として事務官藤堂要藏氏が來り五年級生徒の[illegible]

◎次は平組の紛擾　去十五日消防檢閲を終り引揚後小頭對伍長消防手間に大紛擾を演じ出し刃庖丁を揮て小頭連の酒席に亂入し小頭連は周章狼狽裏門より逃れ出でたる珍事につき組頭の無能小頭對伍長の軋轢伍長の憤慨消防手の激昂等の[illegible]

◎[illegible]

◎[illegible]

◎

懸賞冠附狂句披露

題　いそがしい、はら〳〵、きかぬ。

いそがしい内をたのしむ暮の市　風骨
……と不知で子は強請　仝
朝から客が引き續き　山玉
……とも曰れまい玉の客　仝
又釣竿をかつぎ出し　仝
年のさかひの大晦日　仝
俄にかはる秋のそら　薫風
……そうに借下通りぬけ　仝
赤い襷を猫がジャレ　是空坊
令嬢あさの化粧部屋　仝
氣が利かぬ程忙しい　茂香美
泣子の母は風呂の中　無物
はら〳〵と暗君の侍醫肌にあせ　苦足齋
……と熟き涙も子はひやり　風骨
……にちら〳〵貧は慄々と　仝
……と泣かぬ涙に貰ひ泣き　仝
……と泣て彦九は花が咲き　仝
……と夜淋し露のたつる音　薫風
……と宗吾親子は泣き別れ　仝
……と落つる涙は瀧のよう　仝
……と落つる雨音夢のよう　仝
……と辨慶上使にとこ泣き　山王
……と聞て居たので貰ひ泣　仝
……と馬士の歌出す宿端れ　仝
……と落つる涙もかくす嫁　仝
……と辨慶のなみだ銅貨大　是空坊
……と操のかゞみ曇りなき　仝
……と眼蓋の腫れした三殿　茂香美
きかぬふり唯もし〳〵と口の中　風骨
……なり小糠に釘は神代より　仝
……でもなし聞たでも無見た許　薫風
……には困る親爺ももて餘し　仝
……如何にもかにも聞いた振　仝
……ぬが幸ひ何事もなくて濟　山玉
……〳〵何と云てもモウ聞ぬ　仝
……でも見たので餘程足に成　仝
……ふり彼かゝかと婿えらみ　是空坊
……ふり戸を叩かれて辛と起　仝
……くせ知たふりして諧釋師　茂香美

次回課題【四月十五日ノ切廿五日發表四句一組入花一錢無入花沒書はれ〳〵、なんとなく、さても〳〵、きには掛れど止むに止まれず（上句附）

……とて少女十三はなざかり　仝
佳調十五句
いそがしい時だに嵐車に乘後れ　風骨
……中に泰然居候　仝
……號外賣のかけあるき　薫嵐
……處へ今日も碁の御客　仝
はら〳〵と風に音あり松のつゆ　無物
……と千草露ちる嵯峨の奥　是空坊
……と三行半にちるなみだ　仝
きかぬなり鯊のにらみも其後は　風骨
……ふり母が宥めるあとの幕　苦足齋
……はづ御意見は腑に落ぬ酒　仝
……ふり眠つた振で何もかも　山玉
……氣の老爺なれども老の坂　是空坊
……はづ他所に善いのが有也　仝
……はづ乳母も知ない虫が附　風骨
秀逸五吟
いそがしい雪隱に用問ひにくる　苦足齋
きかぬなり能書ほどに賣藥は　無物
はら〳〵と門出の鞍に散なみだ　苦足齋
きかぬふりして母親のせき拂ひ　薫風
……ふり先の嫁をば姑ほめ　是空坊
人
いそがしい手紙の文字も走て居　苦足齋
地
いそがしい中に婿殿すまして居　是空坊
天（繪葉書一組賞呈）
はら〳〵と時雨の　無物
かゝるひのき笠
撰者吟
いそがしい茶漬の箸を投て立ち
はら〳〵し梯子の上のはなれ業
きかぬゆる矢鱈に惡く言ひ觸し

廣告

産科婦人科
皮膚病花柳病專門
平町字田町　羽岡醫院

内科外科
小兒科診療
平町搔槌小路　市原醫院
院主　市原卯太郎

内科外科
婦人科診療
平停車場前　北鄉醫院

眼科專門
平町字紺屋町　中島眼科醫院

内科小兒科
外科婦人科
宅診午前　往診午後　入院隨時
平町　鈴木醫院

内外科
小兒科
婦人科
平町搔槌小路　磐城醫院
神尾精一

製造堅牢手提金庫
火災保險附
諸官衙各會社銀行御用
漆塗
金卷繪の金庫
効用は火災盜難の防備の安全を主とす需用の各位の質地を乞ふ
栃木縣宇都宮市大工町　吉田虎之助
下野特產金庫製造賣元
振替貯金口座第四五〇壹番（電話四五七番）
特約大販賣　岩代國桑折北町　大沼平兵衛
銅鐵砂糖金庫商　（電信略號オヘ）
特約大販賣　磐城平町五丁目　和洋銅鐵金物金庫　諸橋久太郎
商號　釜屋
鐵製藏扉特別廉價販賣仕候
寸法價格表御報知次第進呈す

弊店獨特最近發行
式コロタイプ頒鮮明
○岩城名所エハガキ○
上下各十枚金十錢宛
●勿來古跡●平八幡神社●湯本景●閼伽井
嶽●藥師●入山附近炭坑●白水阿彌陀堂●塩
屋崎燈臺●波立海岸●仁井田浦●四倉海岸
其他●眞綿チョッキ●貫藥●菓子●陶器
●小間物●學校用品●雜貨商
磐城平町紺屋町見附
角忠號　佐々木節次郎
電略○ホシ

●一代運氣鑑定●一個年運氣鑑定
●訴訟鑑定
大社教導職
陰陽術師
天眞堂　草野新助
平町田町五十五番地
●病氣並緣談占
●其他諸占斷應望

遠藤齒科
口腔病醫院
平町五丁目

同出張所（湯本佐波古館四ツ倉町字本町）

最上白味噌
田村郡三春町　平町二丁目
釀造元　渡邊平助　販賣捌　白土屋茂平

機械製麵類大販賣
砂糖荒物國產紙類
白土加本店
雜貨問屋
平町二丁目
白土屋茂平

登錄商標
KAMENOTOSHI
TRADE MARK
亀の登印
東京深川西裏下町　亀岡謹製
電話浪花（二四八六番）

正札引あし
吳服太物
洋織物類
御祝儀物一式
シャツ、インバネス
東コート、洋傘
合鹽屋吳服店

（土）（橋）（町）（平）

明治四十年五月廿七日第三種郵便物認可

いはき

言論

第廿二號

毎月三回　八日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外ニ郵稅五厘
郵券代用一割增
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　いはき社
編輯人高木朝重　發行人吉田磐次郎　印刷人高橋寛雄

新聞雜誌書籍卸賣業
東京京橋區南八丁堀二丁目二十六番地
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度
振替貯金口座七四壹
平陽社
磐城平吉田禮次郎謹製
一週間分七貼入　金弐拾五錢
いぼぢたつこちはしりぢむねのはりかみのげのぬけかうもんのいたみ〳〵のたゞれ痔病一切によし

磐陽詞壇

夜半風雨、不能眠、無聊殊甚
即賦一絶、以自遣悶、　錦浦　登重三郎
枕上愁聞夜雨聲　疎々密々響々
三更雨驟孤燈冷　又有風聲似雨聲

右席上和韻（音節）　菊浦　故龍川　齊

其樣な人はないと云ふかも知れぬ、併し村農會は斯かる人に相當の報酬をして、一大奮發をして貰ふ必要があろうと思ふ、よい村長のある村、篤志な老農のある村の治績は何のために擧るか、擧村一の篤志農家を見ず云ふよりも、恐らくはかゝる人を見つけて働かする方法を考いないと云ふ方に池廣う蚕籠ひたすやはるさむし　仝
鳥居すきて行く畦路や春あさし　仝
風かゞる宮の一木やはるさむし　仝
長き日や算盤珠はいくつありや　仝

春季亂題を募集す

廣告

ライシングサン石油會社
輸入タンク石油特約販賣

特約販賣店　東京本石町　森田十仝
縣下郡山　根本祐太郎　井上敏一　佐々木
白河　松井平助　原町　小林順左衛門
取次
三春　木村忠助　全
福嶋　山口保命堂　根江
本宮　若井屋安松　嶋岡　林治郎兵衛
郡地　豊太郎　鹿島
喜久雄　菊　新山　佐々木只時
久ノ濱白石屋久太郎